©2018 国立大学法人北海道大学

一般教育演習（フレッシュマンセミナー）グローバル・キャリア・デザイン１

第 24 回
ファースト・ステップ・プログラム(FSP)
欧州全体報告書

2018.9.11～9.23 in Finland & Estonia

©2018 国立大学法人北海道大学

目次

○ファースト・ステップ・プログラム（FSP）について----------2

○参加メンバー紹介----------4

○研修日程表----------5

○研修報告１：事前授業----------6

○研修報告２：協定大学訪問----------8

・ラップランド大学
・タルトゥ大学
・ヘルシンキ大学

○研修報告３：企業等訪問----------14

・Hayashi-Grossschmidt Arhitektuur/タリン応用科学大学
・日本航空株式会社
・在フィンランド日本大使館
・Bearing Point
・フィンランド気象庁
・KONE

○研修報告４：事後授業----------26

○参加者アンケート----------28

○編集後記----------30

©2018 国立大学法人北海道大学

ファースト・ステップ・プログラム（FSP）について

ファースト・ステップ・プログラム（FSP）とは？

全学教育科目のひとつ、「一般教育演習（フレッシュマンセミナー）：グローバル・キャリア・デザイン」は、海外協定校等の教育機関での授業体験や学生との交流、国際機関や国際的に展開している企業の現場見学、及び海外で勤務する方々との対話などを短期間に体験する機会を提供します。このプログラムは、学生にとって交換留学、語学研修、国際インターンシップやボランティア等、本学内外で実施される様々な海外プログラムに挑戦する最初の一歩となることを目的としています。科目を開発する段階では、海外に向けての第一歩という意味を込めて、「ファースト・ステップ・プログラム」という名称を使っていたので、現在、通称を「FSP」としています。（以下、本授業科目を「FSP」と表記します。）

プログラム参加を通して、学生がグローバルなキャリアについての視野を広げ、計画性をもって、将来的にグローバルだけでなく、日本の国内でも活躍するような「グローカル」な人財として育っていくようになることを目指しています。

（HP より抜粋）

第 24 回 FSP 欧州の概要

海外研修期間：2018 年 9 月 11 日（火）～9 月 23 日（日）
渡航先：フィンランド共和国（ロヴァニエミ、ヘルシンキ）
　　エストニア共和国（タリン・タルトゥ）
参加人数：27 名
参加費用：35.5 万円程度
【費用に含まれるもの】航空運賃、宿泊代、専用車借り上げ代、フェリー代
奨学金：日本学生支援機構（JASSO）の奨学金（８万円）が支給される可能性があります（今回、受給要件を満たす学生は、JASSO または北海道大学・ニトリ海外留学奨学金の受給が可能でした。）

私たちが考える FSP について

私たちが考える FSP の特徴は２つあります。

１つ目は、協定校訪問や企業訪問を通して自分のキャリアを考えるきっかけとなるということです。FSP では、海外研修中に複数の海外協定校や企業を訪問することができます。海外協定校で授業体験や現地の学生との交流をしたり、事前に訪問先について学習した上で実際に海外で働いている方の生の声を聞き、企業の見学をさせていただいたりすること

©2018 国立大学法人北海道大学

で、自分の将来のプランを考え、次のステップへ進む、まさに「ファースト・ステップ」となることが、FSP の特徴の一つであると考えます。

２つ目は、約 2 週間の海外研修を 27 名の仲間とともに過ごすということです。FSP には、学部や学年は様々ですが、海外に興味を持つ、同じような目標を持った北大生が集まっています。そのような仲間と学びや気づきを共有し、意見交換をすることで、異なる視点や考え方に気づき、新たな学び・気づきを得られるなど、お互いに高め合うことができるので、より充実した時間を過ごすことができます。

（文責：武田）

©2018 国立大学法人北海道大学

参加メンバー紹介

以下、名前（所属学部、学年、担当班）と表記する。

<三段目左から>

石井優輝
（法学部 1 年、総務企画）
大矢裕介
（総合理系 1 年、総務企画）
内藤飛馬
（経済学部 1 年、記録広報）
阿部亮
（総合文系 1 年、企業訪問）
長谷川健太
（文学部 2 年、記録広報）
山崎正人
（工学部 1 年、記録広報）
小山彰教
（理学部、1 年、総務企画）
和泉輝
（総合文系 1 年、プレゼンテーション）

<二段目左から>

須田萌香
（理学部 1 年、企業訪問）
井下真実子
（文学部 2 年、企業訪問）
齊藤真凜
（水産学部 2 年、プレゼンテーション）
中野梨沙
（文学部 2 年、記録広報）
道山瑛未
（文学部 1 年、記録広報）
遠海春香
（法学部 1 年、プレゼンテーション）
大越瑚子
（経済学部 2 年、記録広報）
武田典子
（文学部 2 年、記録広報）
杉山七星
（医学部 2 年、総務企画）

<一段目左から>

春日由紀子
（工学部 1 年、総務企画）
津曲佐和
（文学部 1 年、記録広報）
加藤史
（獣医学部 1 年、企業訪問）
牧真由
（法学部 1 年、プレゼンテーション）
折登いずみ
（文学部 1 年、総務企画）
金澤実早希
（法学部 2 年、企業訪問）
逢坂はるの
（理学部 2 年、総務企画）
平彩花
（総合理系 1 年、プレゼンテーション）
今井彩乃
（文学部 2 年、記録広報）
勝田梨紗子
（総合理系 1 年、総務企画）

（文責：道山）

©2018 国立大学法人北海道大学

第 24 回 FSP 欧州　日程表

	日付	都市	行程
1	9 月 11 日（火）	新千歳 →ロヴァニエミ	07:55 新千歳成田 ⇒ 15:00 ヘルシンキ 16:25 ヘルシンキ ⇒ 17:40 ロヴァニエミ 19:30 ラップランド日本協会及び留学生の方と夕食・懇談
2	9 月 12 日（水）	ロヴァニエミ	08:30-16:00 協定大学訪問：University of Lapland
3	9 月 13 日（木）		訪問国調査活動等
4	9 月 14 日（金）		13:55 ロヴァニエミ ⇒ 15:10 ヘルシンキ
5	9 月 15 日（土）	ヘルシンキ	09:00-12:00 振り返り MTG 午後：訪問国調査活動 18:00 フィンランド日本人商工会の方と夕食・懇談
6	9 月 16 日（日）	ヘルシンキ →タリン	10:30 ヘルシンキ ⇒ 12:30 タリン 午後：訪問国調査活動
7	9 月 17 日（月）	タリン →タルトゥ	09:00-12:15 企業訪問①Hayashi-Grossschmidt Arhitektuur /タリン応用科学大学 12:15 Hayashi-Grossschmidt Arhitektuur の林知充氏と懇談 13:00 タリン ⇒ 16:00 タルトゥ 16:15 協定大学訪問：University of Tartu 19:45 University of Tartu の学生と夕食・懇談
8	9 月 18 日（火）	タルトゥ →タリン →ヘルシンキ	午前：協定大学訪問：University of Tartu 15:30 タルトゥ⇒ 19:00 タリン 19:30 タリン ⇒ 21:30 ヘルシンキ
9	9 月 19 日（水）	ヘルシンキ	09:00-13:00 協定大学訪問：University of Helsinki 13:30-15:00 企業等訪問②：日本航空㈱ 15:30-16:30 企業等訪問③：在フィンランド日本国大使館 17:00 University of Helsinki, Karavaani の方々との交流
10	9 月 20 日（木）		09:00-10:30 企業等訪問④：BearingPoint 12:30-14:00 企業等訪問⑤：フィンランド気象庁 15:30-17:00 企業等訪問⑥：KONE
11	9 月 21 日（金）		08:00-12:00 振り返りミーティング［第 1 回事後授業］ 午後：訪問国調査活動
12	9 月 22 日（土）	ヘルシンキ →機中泊	08:00－13:30 訪問国調査活動 17:25 ヘルシンキ ⇒ ［飛行機］(機中泊)
13	9 月 23 日（日）	機中泊 →新千歳	08:55 関西国際空港 14:10 関西国際空港 ⇒ 16:00 新千歳空港

©2018 国立大学法人北海道大学

研修報告１：事前授業

海外研修前の 6 月の終わりから 8 月の初めにかけて、全 5 回の事前授業が国際連携機構及び高等教育推進機構にて行われました。

第 1 回

第 1 回事前授業では、FSP 担当の教職員の方々の紹介、授業の概要の説明、さらに、授業受講にかかるマナーについて、ホウレンソウ（報告・連絡・相談）の徹底やメール連絡の際のマナーなどの説明がありました。普段の大学生活ではなかなか学ぶことのできない社会人としてのマナーを学ぶことができるというのも FSP ならではであると感じました。

第 2 回

この回では、成績評価基準と授業課題についての説明があり、その後、総務企画班、プレゼンテーション班、企業訪問班、記録広報班の 4 つの班の班分け、リーダー・サブリーダーの決定が行われました。第 24 回 FSP 欧州におけるそれぞれの役割が決まり、この日から班活動が始まりました。

第 3 回

第 3 回事前授業は、訪問国における安全管理・危機管理についての授業でした。授業の前半は、海外留学生安全対策協議会（JCSOS）の方による派遣留学・海外研修のための危機管理セミナーを他の海外プログラムと合同で受講しました。授業の後半には、第 24 回 FSP 欧州のみで、フィンランド・エストニアでの安全管理・危機管理について確認し、その後、ケース・スタディを行いました。

第 4 回

この回では、授業担当である、国際連携機構国際教育研究センター 肖蘭先生からキャリア・デザインと異文化理解・異文化コミュニケーションについての講義をしていただきました。また、ゲストスピーカーとして高等教育推進機構 荒井克俊先生からキャリア・デザインに関して、研究者への道についてのお話をいただきました。その後、現時点での自分のキャリア・デザインをワークシートに記入しました。研修前に自分のキャリアや異文化について考える良い機会となりました。

©2018 国立大学法人北海道大学

第５回

事前授業最終回となるこの回では、良い聴衆とは何か、効果的なフィードバックとは何かを確認した後、プレゼンテーション班による協定校で現地の学生に向けて行うプレゼンの発表とフィードバックが行われました。また、総務企画班が企画した協定校訪問での学生交流の際に行われるアクティビティを、メンバーで実際に行いました。

ランチ会や学習会

ランチ会の様子

学習会の様子

事前授業の他にも、総務企画班主催のランチ会や、総務企画班による協定校についての学習会、企業訪問班による訪問企業についての学習会が行われました。

これらは海外研修前に参加メンバーの仲を深め、訪問先についての知識を共有する良い機会となりました。また、ランチ会には、過去に FSP に参加された先輩方が同席されたものや過去・現役のリーダー同士が参加したものもあり、体験談を聞いたり、海外研修出発前に不安なことを質問したりすることもできました。

（文責：武田）

©2018 国立大学法人北海道大学

２日目（9/12）　フィンランド（ロヴァニエミ）

研修報告２：協定大学訪問

ラップランド大学（University of Lapland）

「交流の第一歩は相手を知ること」

授業でのディスカッション

ラップランド大学は 1979 年に創立され、教育学部、法学部、社会科学部、芸術構想学部の４つの学部を持つ EU 圏内最北の大学です。その他に北極圏の研究機構（Article Center）があり、北極圏の自然や共同体、人類学等についての調査や研究が行われています。

北方圏研究や先住民研究を推進していることから、2011 年にはラップランド大学と本学の大学間交流協定が締結され、2018 年には Outi Snellman 国際部長が本学を訪問され、また北海道大学アンバサダーに任命されました。

午前中は二つのグループに分かれ、“Finnish System of Education” “Introduction to Service Design”という授業に参加させていただきました。授業自体の様子や雰囲気は日本の大学とよく似ていること、日本より一コマ当たりの授業時間は長く、途中コーヒーブレイクと呼ばれる休憩時間があること等に気づきました。このように実際に授業を受けることができたからこその発見がたくさんありました。また、私は“Finnish System of Education”を受講し、授業中にグループでフィンランドや他の国の教育制度についてディスカッションをする時間があったのですが、私は日本の教育システムについてあまり知らなかったため説明できず、もっと日本について説明できるようになりたいと反省する機会もありました。午後からはプレゼンテーション班のメンバーが北海道大学についてプレゼンテーションをし、北海道大学へ留学することの魅力をアピールしました。その後、箸を使ったレクリエーションを通してラップランド大学の学生の皆さんと交流を図りました。最初は緊張していたメンバーも、次第にラップランド大学の学生に学校生活のことを聞いたり、逆に日本のことを紹介したりと積極的に話しかけている姿が見られました。お話をしていて感じたことは、日本、特に北海道大学への留学を考えている学生が多かったことです。日本について知ってもらえると嬉しい反面、私たちがあまりフィンランドやラップランドについて知らないということに気づ

緊張がほぐれ
次第に笑顔で交流する様子

©2018 国立大学法人北海道大学

き、もっと交流を深めるためには相手のことを知ろうとする姿勢が大事だということを感じました。その後、“Finnish Culture”という授業を受け、フィンランドとロシアの関係等を交えながら歴史や文化について学ぶと同時に、授業の構成が整っていることや要点を先に示すという説明の仕方にも教師の質の高さが表れていると思いました。

（文責：中野）

©2018 国立大学法人北海道大学

７・８日目（9/17・9/18）　タルトゥ（エストニア）

研修報告２：協定大学訪問

タルトゥ大学（University of Tartu）

「国際交流の第一歩は心配り」

タルトゥ大学の歴史は、1632 年スウェーデン国王グスタフ 2 世アドルフによってアカデミア-グスタヴィアナが開学したことから始まっています。現在タルトゥ大学の学部は芸術人文学部、社会科学部、医学部、科学技術学部の 4 学部から構成されています。

研修 7 日目から 8 日目の午後にかけて、タルトゥ大学を訪問し、様々な体験をしました。7 日目はタルトゥ大学の教職員・学生の皆様のご厚意により、タルトゥ大学周辺の街を廻るツアーに参加しました。あいにくの天候でしたが、ツアーをしてくださったタルトゥ大学に通うユリア様のわかりやすい内容でのタルトゥの街の歴史についてのお話に、FSP 参加者一同聞き入っており、終始和やかな雰囲気でタルトゥの街を廻ることができました。そのあと、タルトゥ大学で開講されている初級日本語のクラスに参加し、一緒に講義を受けることで、エストニアの大学生と活発な交流も行われました。

タルトゥ大学の学生によるツアーの様子

8 日目は、午前中はタルトゥ大学で、タルトゥ大学教員によるプレゼンテーションを拝見しました。タルトゥ大学に留学したい人に向けた、タルトゥ大学の詳細な説明をしていただき、FSP 参加者一同タルトゥ大学に惹かれた人も多かったように感じられました。

また、エストニアの文化についてのプレゼンテーションも拝見しました。そのプレゼンテーションでは、例えばエストニアのダンスや歌が好きな文化の説明について動画を利用したりと、FSP 参加者にわかりやすいような工夫の織り交じられたものであり、まだ見知らぬ土地であったエストニアが、身近に感じられるようになる講義内容でありました。

そのあと、ティータイム・昼食をタルトゥ大学のご厚意で用意していただき、メンバー一同感謝してエストニアの紅茶・お菓子をいただきました。そのような大変丁寧な心配りに FSP 参加者の心も身体も温かくなったことでしょう。

タルトゥ大学の訪問から、国際交流とは何かという問いの答えの片鱗を見つけられたの

©2018 国立大学法人北海道大学

タルトゥ大学での講義の様子

ではないかと思います。例えば、「心配り」。ツアーを先導していただいたユリア様は終始笑顔で、私たちに接してくださいました。また、タルトゥ大学の方々は、私たちのためにお菓子まで用意していただきました。どんなに英語が通じなくても、日本語が通じなくても、心配りは通じるのだと実感することができました。気持ちがあれば通じると、よく言われることでありますが、その気持ちを持っていても表現しない限りは、通じることはありません。気持ちとそれを表す努力。それらが大事になってくると感じられた参加者は大勢いることでしょう。

（文責：今井）

©2018 国立大学法人北海道大学

9 日目（9/19）ヘルシンキ（フィンランド）

研修報告２：協定大学訪問

ヘルシンキ大学（University of Helsinki）

「研究の第一歩は研究を楽しむこと」

ヘルシンキ大学（https://www.helsinki.fi/en/university）は 1640 年に創立された、総合大学です。ヘルシンキ市中央キャンパス、Kumpula キャンパス、Meilahti キャンパス、Viiki キャンパスの 4 つのキャンパスと 11 の学部から構成されています。

ヘルシンキ大学では、図書館ツアーをしていただいた後、日本語上級クラスの授業に参加し、授業参加学生の補助及び、ディスカッション、プレゼンテーション発表などで交流を行いました。その後、学生とともに昼食を取りました。図書館を案内していただいた際は、図書館の建築構造や、貸出図書の電子書籍化が進められていることなどを教わり、返却された本の分類をするベルトコンベアーも見せていただきました。その後訪れた、ヘルシンキ大学の日本語上級クラスの目標は「正しい文法で話す、書ける」ことで、ヘルシンキ大学に留学に来ている日本人学生にアシスタントとして参加してもらっています。今回の授業内容は、「外国語を学ぶこと」でした。授業を受けている学生は 9 人で、そのうち 5 人が留学経験者、4 人は留学したことがありません。学生の日本語のレベルはとても高く、漢字も困難なく読むことができ、理解もしていたことに驚きました。授業内のディスカッションでは、前回授業で経済に関する日本語について扱っていたことから、学生が働くことについて話し合いました。プレゼンテーションでは、留学先としての北海道大学の魅力についての発表を行いました。また、授業内では、グループごとに外国語を学ぶことに関して、ディスカッションを行い、授業の最後に外国語を学ぶことにおけるそれぞれのキーワードを紙に書いて発表しました。「継続」や「努力」など様々なワードが出てきていました。また、授業後にはヘルシンキ大学の学生と日本語上級クラスで指導をしていらっしゃる布施倫英様とともに、昼食をとりました。ここでは、それぞれがフィンランドの教育のことや、学生の日本留学の体験談など様々なお話をしていました。また、布施様ともフィンランドで働くことや、海外での子育てのお話しなど、海外で生活する上での、利点や苦労する点などを伺いました。

プレゼンテーションの様子

©2018 国立大学法人北海道大学

学生交流の様子

ヘルシンキ大学の学生に、勉強することは楽しいかと尋ねましたが、どの学生も「楽しい。楽しいことを勉強にしている」と回答し、勉強することについて考えさせられるメンバーもいました。ヘルシンキ大学の学生の学習に対する意欲がとても高いのは、このことに理由があるように感じました。また、フィンランドの学生は基本的に授業料が無料ですが、アルバイトをしている学生が多かったです。その理由として、普段の生活にかかる費用が高いからという理由以外にも、インターンシップで仕事の仕方を覚え、その会社に将来就職するためという理由から働いているという学生もいました。場所によっては、アルバイトも正社員も同様の扱いとなり、同等の給料が支払われる会社もあるそうです。また、インターンシップは大学の単位にも加算されるので行う学生もいるとのことです。アルバイトに対する考え方の違いもうかがえて、さらに視野が広がったように感じました。

（文責：道山）

©2018 国立大学法人北海道大学

7 日目（9/17）　タリン（エストニア）

研修報告３：企業等訪問

Hayashi-Grossschmidt Arhitektuur/タリン応用科学大学　林 知充様のご講話

「好きなことを・やりたいことを貫き、自分の将来を切り開く」

Hayashi-Grossschmidt Arhitektuur

Hayashi-Grossschmidt Arhitektuur は、林様が Hanno Grossschmidt 氏と共同主催していらっしゃる建築設計事務所です。

林様のご講話の様子

ご講話では、林様の現在に至るまでのご経歴についてお話を伺いました。林様は、日本の大学で建築を学ばれた後、海外の大学院に進学されました。そこでエストニアから交換留学生と知り合いになり、卒業後ニューヨークの事務所で働いている時に、エストニア人の友人から声がかかったことをきっかけに、「自分の名前を出して仕事をしてみたい」との思いからエストニアに移住されたそうです。

林様のご講話で印象に残ったのは「何度挫折しても、建築をやっていてよかった」というお言葉です。挫折や苦労を経験しながらも、日本から遠く離れたエストニアの地で自分のやりたいこと、好きなことである建築に取り組み、自らの将来を切り開いていらっしゃる林様の姿はとても素敵であると感じました。私はやりたいことがあっても本当にできるのだろうかと思ったり、周りの目を気にしてしまったりして諦めようと考えることがあるので、簡単に諦めずやりたいことに正直に、努力を怠らずに生きていきたいと思いました。

ご講話の後、オフィスの外に出てオフィスの周辺の建築物を案内していただきました。実際に建築家の方の説明を聞きながら建築物を見るということはなかなかないので、とても興味深く、貴重な機会でした。

タリン応用科学大学

タリン応用科学大学は、４年制で、建築、工学、循環型経済、ロジスティクス、衣類・繊維、土木工学の６つの専門をもつ、工学の分野において高度な職業教育を提供する教育機関です。林様は、2012 年より、本大学の建築学科で教鞭をとられ、現在は准教授として

©2018 国立大学法人北海道大学

後進の指導にあたっていらっしゃいます。（注：2017 年の改組により学部制度がなくなり、建築環境工学部建築学科から、独立した建築学科になりました）

林様との記念写真

オフィスでのご講話、建築物見学の後、大学に移動して、大学内を案内していただきました。見学では、建築の他、自動車などの工学も見ることができました。その中で、建築において設計したものを３Ｄで立体的に見てミスがないか確認するという、このような機会でなければ体験できないような最新の技術にも触れることができました。見学後、大学のラウンジでランチをとりました。ラウンジには卓球台やソファがあり、学生が思い思いにくつろいでいる姿が日本の大学ではあまり見ない光景であるので新鮮でした。ランチの際も多くのメンバーが林様に質問をしていました。例えば、建築分野を進路の視野に入れているメンバーは、実際に建築家として活躍されている林様にやりたい分野の実情や学部卒業した後の進路の様子を聞かせていただきました。ただ自分で書籍やインターネットで調べるだけではわからないことを聞くことができ、自分の進路に大きく役立たせることができるなど、最後まで充実した時間を過ごすことができました。

（文責：武田）

©2018 国立大学法人北海道大学

9 日目（9/19）　ヘルシンキ（フィンランド）

研修報告３：企業等訪問

日本航空株式会社　松倉 弘明様のご講話

「失敗を乗り越え糧にする　自分の会社・仕事に誇りを持つ」

日本航空株式会社（JAL）ヘルシンキ支店の総務セクションマネージャーである松倉様からご講話をいただきました。松倉様のご講話では、JAL・ヘルシンキ支店について、海外で働くということの二つについてお話を伺いました。

松倉様のご講話の様子

まず 2010 年における JAL の経営破綻からの再生に関して、経営再建の立役者である稲盛和夫氏のもと導入された、JAL グループ全社員がもつべき意識・価値観・考え方である「JAL フィロソフィ」についてお話しいただきました。また、ヘルシンキ支店について、ヘルシンキという場所だからこその役割やヘルシンキ支店の仕組み、仕事についても説明してくださいました。ヘルシンキ・ヴァンター国際空港は飛行時間約 10 時間と日本から一番近いヨーロッパであり、乗り継ぎが便利であるので、ヨーロッパ各地へ直行便を飛ばすという考えではなく、お客様をヘルシンキまで運び、そこからはフィンエアーの便でヨーロッパ各地へお客様を運ぶという体制をとっているそうです。また、ヘルシンキ支店は従業員が 15 名で、コスト削減のためにコンパクトな支店運営がなされ、マルチタスク化していて整備士がお客様の案内をすることもあるなど、一人が二つ以上の仕事をできるようにしているとおっしゃっていました。

次に、松倉様がなぜ JAL に入社したのか、入社に至るまでの経緯、そして海外で暮らすこと、海外で働くことについて松倉様ご自身の経験も交えたお話を伺いました。松倉様が JAL に入社する際の決め手は、就職活動の過程で出会った JAL で働いている方々が楽しそうに働いており、自分もこういう人になりたいと思ったことだそうです。最後には学生時代にすべきことについて、「なりたい自分」を想像する、地味な努力を積み重ねる、「無限の可能性」を信じる、というお話もいただきました。

©2018 国立大学法人北海道大学

松倉様との記念写真

松倉様のご講話はユーモアを交えたとても魅力的なもので、メンバー一同聞き入っていました。ご講話を聞き、経営破綻という過去の失敗を、失敗のままにせず、それを糧に、強みにしているということに感銘を受けました。過去の経営破綻の経験を踏まえて、企業として利益を上げることを前提にお客様のニーズやその土地に合わせた支店運営をしているということを、ヘルシンキ支店の具体的な事例をもとに伺ったことで、企業について、企業で働くことについて今まで曖昧であったイメージが具体的になったように思います。また、お話してくださる松倉様の姿から、松倉様をはじめ JAL で働いている方々は、日本を代表する会社である JAL で働いていることに対して幸せや誇りを持っているのだと感じました。私も将来働くときには、自分の仕事に対して誇りを持ち、その仕事をしていて楽しい、幸せだと胸を張って言えるようになりたいです。

（文責：武田）

©2018 国立大学法人北海道大学

９日目（9/19）　ヘルシンキ（フィンランド）

研修報告３：企業等訪問

在フィンランド日本国大使館　齋藤　昌子様のご講話

「グローバルに働くヒント」

９日目は、在フィンランド日本国大使館で広報文化班に所属し一等書記官としてお仕事をされている齋藤様にご講話をいただきました。
日本国大使館は、日本がフィンランドでの外交活動を行う拠点であり、フィンランドに対し日本を代表し相手国政府との交渉や連絡、政治・経済等の情報収集・分析、日本を正しく理解してもらうための広報文化活動や、邦人の現地での援護活動を行っています。

齋藤様のご講話では、主にご自身の経歴についてと、外務省や在外公館で働くことや国際機関で働くということ、そのために必要なことについてお話して下さいました。齋藤様は日本の大学で法律、政治を学び、ロンドンの大学院で修士課程を修めた後、日本の広告代理店での勤務を経て国連難民高等弁務官(ＵＮＨＣＲ)駐日事務所で広報の仕事を始められたそうです。その後は国際連合スーダン・ミッション（UNMIS)、在アフガニスタン日本国大使館、東京で外務省勤務、在バングラデシュ日本国大使館、在フィンランド日本国大使館と先進国と発展途上国両方の勤務で多様な経験をされました。

齋藤様のご講話の様子

当初、広告代理店での広報の仕事内容は本当にやりたいことだったわけではなく、知識もない商品の広告作成だったのでいろいろと苦労されたそうです。しかし、取り組んでいるうちに興味がもてたり面白味がわかってきてやり甲斐を見出すことが出来、当時の広報の業務で身につけたスキルが、その後の様々な外務省や国際機関での仕事に役立っているので良い経験だったと仰っていました。さらに齋藤様は私たちに向け、これから仕事に就き、配属された先が希望とは違うことがあるかもしれないが、いつかどこかで役に立つかもしれないから興味を持って一度真剣に取り組んでみてほしいとも仰っていました。私はこの言葉を聞いて、これは就職後に限らず、大学での授業やその他の活動など人生で関わるもの全てについて言えるのではないかと思い、一見つまらなそうに感じるものでも目の前にあるものに一度真剣に取り組んでみようと決心しました。

©2018 国立大学法人北海道大学

齋藤様との記念写真

また、外務省や在外公館、国際機関での仕事についてもご説明いただき、特に国際機関では仕事に就くのも、異動、昇進するのもすべて自分でポストの空きを探すなどして能動的に動かなければ周りからは何もしてもらえず、世界の転職市場は完全能力主義の競争なので自身のスキルをアピールする力も必要とされていると知りました。世界中で多くの経験を積まれた齋藤様の私たちの進路選択に対するご教示のお言葉にはとても説得力があり、これからグローバルに働くためのヒントをたくさん頂けた気がします。

（文責：内藤）

©2018 国立大学法人北海道大学

10 日目（9/20）　ヘルシンキ（フィンランド）

研修報告３：企業等訪問

BearingPoint　鬼頭　隆様のご講話

「自分の仕事と人生」

10 日目は、現在 BearingPoint でお仕事をされている鬼頭隆様にご講話をいただきました。BearingPoint は、ヨーロッパを本拠地とする経営・技術コンサルタント会社です。またそれ以前の約 15 年間、フィンランドを本拠地とする Nokia にて、Customer Care の分野で様々な仕事をされていました。鬼頭様には、ヘルシンキ大学にて鬼頭様ご自身の仕事観について、そしてこれまでのキャリアの大半を占める Nokia での経験を中心にご講話をしていただきました。

まずは、ご自身の経験についてのお話をしていただきました。もともと文系専攻であったにもかかわらず、社会人から理系の専門分野を研究する大学に入学されたことについて、家族旅行が大きな転機になって北欧に興味を持ち、実際に北欧に移住することになったというご講話を最初にしていただきました。このように溌剌としたご様子で、自らの経験について語る鬼頭様のご講話に FSP 参加者各々、非常に心魅かれることがあった事だと思います。

鬼頭様のご講話の様子

次に、鬼頭様ご自身がこれまでの経験を通して社会人として、グローバル社会で働く際に、身に着けてきたことを、FSP 参加者に分かりやすく説明してくださいました。

例えば、「Logical thinking」を身に着けることは働く際に、とても大事だというお話がありました。それに関連して、その「Logical thinking」をどう身に着ければいいのかという質問も多く出ていた通り、参加者一同、非常に興味をもって聞いていました。また、「Care」という内容のお話は、私にとって今後どんな時でも意識したいと思うお話でありました。「相手のための」プレゼンテーション・文書作成、協力してもらったときには感謝の気持ちを伝えることを忘れないなど、社会人として以上に、人として大事なことをどんなときでも大切にしていくべきだという内容のお話でありました。これは、まずはグローバルに働く・社会人として働く以前に人として大

©2018 国立大学法人北海道大学

事なことでありますが、忘れがちになってくることであると思います。まずは、人として成熟した社会人になること、そのことを身に染みて感じた FSP 参加者が多かったことでしょう。

鬼頭様との記念写真

鬼頭様のご講話の後、ヘルシンキ大学内「Uni Café」にて、昼食をとりました。その際、ヘルシンキにて幼少期を過ごされた鬼頭様のご子息と、日本の教育制度とフィンランドの教育制度の違いについて、お互いの学校生活についての話を交えつつ、交流し、有意義な昼食の時間を過ごしました。

（文責：今井）

©2018 国立大学法人北海道大学

10 日目（9/20）　ヘルシンキ（フィンランド）

研修報告３：企業等訪問

フィンランド気象庁　Yao Gao 様のご講話

「海外で働くときの心構えとは」

10 日目は、フィンランド気象庁を訪問し、中国ご出身の研究員の Yao Gao 様にご講話を頂きました。

フィンランド気象庁では、高度な技術を持った研究者が、「社会の安全と円滑な事業のための最善のサービスを提供すること」を理想とし、大気中の事象に関して国民の安全を確実なものにするため、また、国民が求める気象に関するサービスを充実させるため、最良の情報を国民に提供することを主な目的としています。また、天気予報の作成だけでなく、気象、海洋、宇宙、自然災害についての研究も行っており、特にここでは北極圏研究も積極的に行われています。

Gao 様は、外国で働くことについてと、気象の研究について話して下さいました。Gao 様は中国の大学を卒業後、ヘルシンキ大学で気象学を学び、イギリス気象庁での客員研究員を経て現在に至るそうです。私は Gao 様の、海外で学問を究め、その研究職に就かれている熱心さに驚きました。

また、海外で働くにあたって、外国語を話す時の心意気について、「英語が一回で伝わらなかったとしても気にせず、伝えようという意思を持って何度も挑戦するのが大切、ゆっくりと話すのは悪いことではない、誰も焦らせはしないから。」というお言葉があり、現地の人とのコミュニケーションがうまくいかないことを気にしていた自分にはとても響きました。現地の人のように流暢に話すことよりも、ゆっくりでもまずはしっかりと自分の考えを伝えることを意識しようと思いました。

ご講話の様子

また、学問をする上で大切なのは自分の興味を伸ばすこと、自分の特別なスキルをもつこと、逆に自分の弱みからは目を背けられないので、それを見極めてポジティブに取り組むことだとも仰っており、今後の大学

©2018 国立大学法人北海道大学

生活に活きるアドバイスだと感じました。気象研究のお話は専門的で難しく理解の追いつかない部分も多かったですが、Gao 様には学問に向き合ったり、海外で働く勇気を頂きました。

ご講話の後、施設内の見学や、実際に研究員の方に気象について、現在の気象分析法や自然災害、現在フィンランド気象庁が行っている調査やサービス等についてのお話を伺う機会をいただきました。内部には様々な施設があり、放射線研究のための巨大プールなど、どれも見たこともないものばかりで文系の私にも興味深く、面白かったです。また、研究員の方のお話では現地ならではの分野である、北極圏の気象研究について聞くことができました。フィンランドの平均気温は世界平均の約二倍のペースで上昇しており地球温暖化の影響は高緯度ほど大きくなっているということなど、専門的なことについても教えて頂き、大変勉強になりました。

Gao 様との記念写真

（文責：内藤）

©2018 国立大学法人北海道大学

10 日目（9/20）　ヘルシンキ（フィンランド）

研修報告３：企業等訪問

KONE　ヴァロヴィルタ　郁枝様のご講話

「女性の社会進出の現状」

KONE はエレベーター、エスカレーター、オートウォーク、自動ドア等の製造修繕を行っており、都市生活の「人の流れ」を改善し、人々の移動が安全で安心、かつ便利なものであることを目指すことを企業理念として掲げているフィンランドの企業です。フィンランド以外にも様々な国へエレベーター、エスカレーターを輸出しており、世界 60 ヵ国以上で操業しています。近年では、高層ビルにエレベーターを導入することに力をいれており、建設ラッシュの中国などに多くエレベーターを輸出しています。KONE では地域ごとに業務内容の割合が異なり、ヨーロッパではメンテナンスが中心であり、中国では新規建設が多くの割合を占めています。

ヴァロヴィルタ様のご講話の様子

ヴァロヴィルタ様のご講話では、ご自身の経歴、KONE という企業について、そして女性の社会進出についてお話していただきました。ヴァロヴィルタ様は、高校生、大学生の時代にアメリカへ留学しており、その時に５歳の子との会話が言語上達の役に立ったことや、様々な人種、文化と触れることにより寛容性が深まったこと、親元を離れたことによって自立心が身についたことなどをお話ししてくださいました。また、KONE で働くようになってから感じた、働く上での重要なことについてもお話ししてくださいました。ヴァロヴィルタ様は適応性、即ち非本質的なことにはこだわらない寛容性が求められるとおっしゃっていました。また、「期限付きのゴール設定をするのも良いが、寄り道をして気がついたらついていた」という働き方もありで、一生懸命、今自分に与えられていることをすることが大切だともおっしゃっていました。そのほか女性の社会進出に関して、フィンランドでは労働力の５１％が女性であるため、寿退社というものがほとんどないこと、そのことにより産休取得率も高いので、人事の調整が大変であるということ、夫も家事を手伝うことなど、フィンランドの女性の社会進出に関する現状について教えて頂きました。

©2018 国立大学法人北海道大学

ご講話の中で、言語を学ぶコツや、女性の社会進出についての考え、留学の体験談など様々なお話をしてくださりました。言語を学ぶコツとして、現地の人の真似をするということに驚きを覚えた学生も少なくなかったです。羞恥心を乗り越え、現地の人の真似をするということは決して容易なことではないですが、ネイティブに近づくにはよい方法だと感じました。質疑応答の際、メンバーの一人が留学への不安に関する質問をした際の回答が印象的でした。ヴァロヴィルタ様は留学に対する不安よりも、興味や熱意のほうが大きかったと回答していたことに、思い立ったときにしようと行動する行動力こそがすべての原動力となっているのではないかと思いました。また、女性の社会進出、男女共同の社会について、女性も変わる必要があるとのお言葉をいただきました。確かに、企業や男性の考えを変え、女性の社会進出に対して寛容的になることも大切ですが、女性自身行動を起こしていくことの必要性もあるとの考えに気づかされました。ご講話を通じて、仕事とは本来どのようにあるべきか、女性の社会進出が進んでいるところからの女性が働くことの考え方、留学を有意義なものにするためにはどうすべきかを考えることができたと思います。

ヴァロヴィルダ様との記念写真

（文責：道山）

©2018 国立大学法人北海道大学

研修報告４：事後授業

事後授業

「学びの共有」

第１回事後授業で意見交換を行う様子

第１回

第１回事後授業は海外研修中の９月 21 日に行われ、メンバー同士で海外研修を通して考えたこと気づいたこと等の意見を交換し合い、引率してくださった川端先生と井上先生からグローバル・キャリアを積んでいる先輩としてメッセージをいただきました。前半の意見交換では、最初に「海外研修前に立てた目標」「フィンランドとエストニアで学んだこと」「グローバル・キャリア・デザインだからこそ学んだこと」の三つのテーマについてグループごとに話し合い、最後に全体で共有するという形で進めました。特に三つ目のテーマについて、この FSP には様々な学部のメンバーがおりその考え方や着目点も当然異なるため、他のメンバーの意見や考えを聞き、自分とは異なる視点で捉えていることに驚くことが少なくありませんでした。例えば、福祉という観点で見てみると石畳の歩道が多く車いすの方が通りづらいという発見や、日本より英語が身近にあふれているため英語を自然に話せる人が多いのではないかというような意見を聞くことができ、自分が意識していなかった着眼点について知ることができました。このように気づいたことをみんなで共有することで自分の専門分野の観点だけでなく別の見方もできるということを知り、視野が広がったという意見が多かったです。また、後半の先生方からのメッセージでは、どのような考えを持って働き、生きてきたのかというお話を聞き、井上先生、川端先生からそれぞれ「成功の秘訣は徹底してやること」、「人は財産である」というお言葉をいただきました。自分で限界をつくらずに一度やると決めたことは諦めず、そしてお世話になった方々への感謝を忘れずに生きていきたいと思いました。

第２回

第２回事後授業は帰国後の 10 月 17 日に行われました。帰国報告会のために記録広報班が作成したプレゼンテーションについて他のメンバーからフィードバックを受け、帰国報告会本番に向けての準備を整えました。私たちが学んだことを精一杯伝えられるように全力を尽くそうと気持ちを新たにすることができました。また、セカンドステップに向けて

©2018 国立大学法人北海道大学

海外研修出発前の自分との変化についてグループで話し合い、目標が変わった、逆に目標は変わらなかったがより努力しようと決意を新たにしたという意見がありました。

帰国報告会は 10 月 31 日の第３回事後授業です。お越しくださった皆さまに、この FSP を通して私たちが気づき、学び、得られたこと、そして FSP の魅力を感じていただければ幸いです。

（文責：中野）

©2018 国立大学法人北海道大学

参加者アンケート

FSP 第 24 回欧州に参加した 27 人に対し、海外研修後にアンケートをとりました。このアンケートの掲載目的としては、FSP 参加者の生の声を掲載することで、FSP に参加しようか悩んでいる人の参考にしてもらうということです。参加者たちはこのプログラムに参加して、どう変わったのかが切にわかる項目になっています。

Q1:このプログラムに参加した目的を教えてください。　（選択型式・複数回答可）

海外に行ってみたかったから　13 人
将来のことを真剣に考えたかったから　17 人
コミュニケーション能力の向上　7 人
フィンランド・エストニアに行きたかったから　10 人
その他（自分を変えたかったから　夏休み暇そうだったから）

Q2:あなたが FSP をおすすめする理由を教えてください。（自由回答）

・留学ではできない体験
・海外を意識している同世代と意見交換ができる
・様々な境遇、考えを持つ人々と接する機会がある
・2 週間弱で自分が成長した、と実感出来るところ
・普段の自分を見つめ直す機会になる点

Q3:FAP 第 24 回欧州を通していく前と変化した所はありますか？身に着いたことはありますか。（自由回答）

・相手との対話・意見交換の時のタイムマネジメント
・積極的になれた
・自身の意見を相手に分かりやすく伝える大切さに気付いた
・周りを見渡す癖がついた
・自分に足りないものに具体的に気がつくことができた
・本当に心から他の人のために働けるようになった
・正直現時点ではあまり実感がないです

Q4:あなたが一番印象に残っている体験を教えてください。（自由回答）

・一番ということはなく、全てが強く残っている
・フィンランド日本人商工会の方々との食事で、「したい」ことは「する」にしなきゃダメだよと言われたこと
・道を歩いている際、親切に道を教えて下さる現地の方が何人もいた

©2018 国立大学法人北海道大学

・仲間と夜まで語り合ったこと
・訪問国調査で自主的にその国について調べたこと
・各企業でプレゼンの仕方、内容に色があった
・初めはお互い名前も覚えていないくらいの仲だったのが、研修中に一気に仲が深まり、ミーティングの質も格段に上がったこと
・KONE でのご講話にあった、女性は社会が変わるのを待つだけでなく、自分たちの地位向上のため自ら動き出していかねばならないというお言葉が印象的だった
・No.2 のピザを注文したらそれが二枚でてきた

Q5：あなたの訪問国調査活動のテーマと行った場所を教えてください、
（訪問国調査活動とは、より能動的に訪問国に対する理解を深めるために、各自、事前に情報収集をした上で訪問国に関する調査テーマを設定し、現地で調査を行うというものです。ここでは、各自のテーマと、そのテーマを調査するために訪れた場所を「テーマ（場所)」と記しています。）
・観光事業への取り組み（スオメンリンナ島、アテネウム美術館等）
・フィンランドのサウナについて（フィンランド内のサウナ）
・フィンランドがロシア統治下にあったという歴史について
（国立博物館、ウスペンスキー寺院、元老院広場等）
・フィンランドと日本の教育についての比較（ラップランド大学、ヘルシンキ大学）

※上記の回答は、記録広報班が行ったアンケートへの FSP 生の回答を、そのまま掲載しています。また、各設問の全ての回答を使用していたいのはもっともでありますが、回答数の調整のために、あらかじめ抜粋しています。ご了承いただければと思います。

（文責：今井）

©2018 国立大学法人北海道大学

編集後記

第 24 回 FSP 全体を通して

ここまで第 24 回 FSP 欧州振り返ってみましたが、このプログラムを一言で表すとすると、この 3 つの小テーマに要約されるのではないでしょうか。

「自主性」…自ら進んで、行動すること。
そうでなければ、見えない視点・世界観がたくさんある

「多様性の理解」…一緒のメンバーと交流するだけでも多様性が見えてくる。
そして、現地の方との交流によってもっと幅広い多様性を理解する必要が見える

「学びの共有」…理解したことの共有。それによって、理解の幅を広げられる。
自らの好奇心が刺激され、もっと自らが動こうと思うようになる。

これら 3 つの小テーマは FSP 参加者にとったアンケートにもこのプログラムを象徴する言葉として挙げられています。簡潔に言うのであれば、FSP とはこのようなプログラムであるといえるのではないでしょうか。

帰国報告書作成に携わったメンバーの言葉

この報告書を読んでくださっている方がこの帰国報告書を読んで、FSP を知り、興味を持ってもらうことができていれば幸いです。

また、第 24 回 FSP メンバー一同、企業訪問や協定校訪問、FSP メンバーとの関わりなど FSP でしかできないような経験を通し、それ以上のことを学んで帰ってくることができたと思っています。報告書を書くにあたり、改めて今回の経験、そこでの学び・気づきを振り返り言葉にすることで、学んだこと、今後の自分に必要なことを再確認することができました。FSP で学んだこと、身につけたことを今後の大学生活、そして自分のキャリアに生かしさらに成長していけるよう、努力を重ねていきたいと思います。

最後に

このプログラムを企画・運営してくださった川端先生はじめ、肖蘭先生、井上先生、吉田先生、岡部先生、ユハ先生に参加者一同、深く感謝の意を表します。

また、このプログラムに携わっていただいたすべての方々に感謝します。

（文責：今井）

©2018 国立大学法人北海道大学

一般教育演習（フレッシュマンセミナー）：グローバル・キャリア・デザイン 1

第 24 回 FSP 欧州　全体報告書

2018 年 10 月 31 日

編集

第 24 回 FSP 欧州　記録広報班

全体報告書担当（今井・武田・内藤・中野・道山）

問い合わせ先

北海道大学　国際連携機構　国際オフィサー室（国際交流課）

電話：(011)706-8032

E-mail：ambitious@oia.hokudai.ac.jp

Website：https://www.oia.hokudai.ac.jp/be_global/

Facebook：https://www.facebook.com/1ststepprogram

Twitter：https://twitter.com/fsp_hokudai　https://twitter.com/fsp2018

Instagram：http://instagram.com/fsp2017_spring